

令和2年度 第2回 健康横浜21推進会議 議事録	
日 時	令和3年3月25日(木) 18時～19時30分
開催場所	横浜市役所18階 なみき18・19会議室
出席者	健康横浜21推進会議委員 19人(資料1)
開催形態	公開(傍聴者1人)
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 新任委員紹介あいさつ&lt;資料1～2&gt;  役員の変更に伴い、横浜市PTA連絡協議会 青木委員、横浜南労働基準監督署 河野委員、神奈川県国民健康保険団体連合会 高塚委員、株式会社テレビ神奈川 玉村委員、禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議 長谷委員、神奈川県栄養士会 長谷川委員が今年度から新たに就任。</p> <p>3 議 事  【議事1】「横浜市歯科口腔保健 令和3年度から令和4年度の取組」(案)について  【議事2】第3期健康横浜21の策定に向けて  【議事3】食育推進検討部会の設置について</p> <p>4 報 告  【報告1】健康に関する市民意識調査の実施状況について  【報告2】横浜市受動喫煙防止対策における取組の方向性について  【報告3】よこはまウォーキングポイント事業について  【報告4】令和2年度における健康経営の推進について  【報告5】横浜市糖尿病重症化予防ネットワーク検討会及び作業部会の実施状況について</p> <p>5 閉 会</p>
決定事項	<p>【議事1】「横浜市歯科口腔保健 令和3年度から令和4年度の取組」(案)について、各委員から意見を聴取し、事務局案について、各委員の了承を得た。</p> <p>【議事2】「第3期健康横浜21の策定に向けて」に関して、各委員から意見を聴取し、各委員の了承を得た。</p> <p>【議事3】「食育推進検討部会の設置について」に関して、各委員から意見を聴取し、事務局案について、各委員の了承を得た。</p>
議 事	<p>(健康福祉局 田中局長)</p> <p>令和2年度はコロナ一色となったが、健康づくりに関する事業についても、感染防止対策を工夫しながら推進してきたので、報告する。</p> <p>令和3年度は、第2期健康横浜21の最終評価を行うとともに、令和5年度から始まる第3期計画の策定をスタートさせる重要な年になる。</p> <p>分野別の取組としても、歯科口腔保健、食生活と食育、受動喫煙防止対策、よ</p>

こはまウォーキングポイント等を通じた運動習慣の定着、働き世代に向けた健康経営の推進、糖尿病等の重症化予防など、健康寿命の延伸を目標とした様々な取組を推進しながら、次の第3期計画に引き継いでいくことが求められている。

本日の会議では、第3期健康横浜21の策定に向けて、重要となるキーワードを委員の皆様にご議論いただく。

また、「計画評価及び次期計画策定検討部会」と「食育推進検討部会」の設置について御審議いただくとともに、「歯科口腔保健推進検討部会」でとりまとめた「令和3年度から令和4年度の実施案」についても、御報告させていただく。

皆様から御意見をいただき、さらなる市民の健康づくりの推進につなげていきたい。

**【議事1】「横浜市歯科口腔保健 令和3年度から令和4年度の実施案」(案)について<資料3-1~3-4>**

事務局から資料3-1~3-4について説明

(横浜市医師会 渡辺会長)

歯科口腔保健の報告があった。歯科口腔保健部会の委員を務めた歯科医師会の佐藤委員から補足はあるか。

(歯科医師会 佐藤委員)

多くの皆さんから意見をいただき、大変いいものが出来つつある。

実行しないと意味がない。皆さんが実行可能な行動目標につなげたい。お口の健康から身体に健康に繋げていきたい。

(薬剤師会 瀬戸委員)

口腔に影響を及ぼす医薬品は多々あるので、薬剤師会としても歯科医師会と連携して情報提供を進めていきたいと思う。

(保健活動推進員 田中委員)

保健活動推進員は、歯科口腔を十分理解している段階ではないので、まず1年は勉強するため、各区の福祉保健課と相談し、講義を受けることとしている。

歯科口腔の分野は広い、歯磨きは皆がやるが、舌磨きはあまりやらない。歯磨きと共に舌磨きを行っていくことが重要と考えている。

(栄養士会 長谷川委員)

資料3-3のコラムが具体的で、興味深いものが多かった。栄養士会は赤ちゃんから高齢者まであらゆるライフステージに関わっている。歯科口腔保健もライフステージごとに着目した施策で、食育や重症化予防にも関係してくるので連携していきたいと思っている。

(食生活等改善推進委員会 守分委員)

歯科口腔保健が大事ということがどれだけ市民に浸透しているかが気になる  
ところだった。保健活動推進委員会と同じように自らの学習と地域への啓発活動  
を行っていったらと思っている。また、今後も情報をいただきたい。

(産業保健総合支援センター 渡辺委員)

歯科口腔保健については、法令上の健診の規制はない。私は、横浜健康経営認  
証の認証委員も兼ねているが、認証した事業所の中に、歯科口腔保健を課題に挙  
げて取り組んでいるところがあった。やはり、歯科口腔保健が全身疾患と関連が  
あるということから広報活動を進めていくことが重要だと思う。

(横浜市医師会 渡辺会長)

この議事については、よろしいか。

(一同)

了承。

**【議事 2】 第 3 期健康横浜 2 1 の策定に向けて <資料 4 >**  
事務局から資料 4、参考資料について説明

(横浜市医師会 渡辺会長)

第 3 期健康横浜 2 1 の策定に向けて、事務局から説明があったが、ご意見、  
ご質問はあるか。

特にないようであれば、事務局の説明のとおり、進めていくことでよろしい  
か。

(一同)

了承。

(横浜市医師会 渡辺会長)

事務局から、今後に向けてのご意見をいただきたいとのこと。

この部分については、進行を荒木田副会長にお願いする。「健康横浜 2 1」  
の推進に向けて、皆様と議論を深めていきたい。

(川崎市立看護短期大学 荒木田副会長)

先ほど事務局から説明がありました第 3 期健康横浜 2 1 の策定に向けて、重要  
だと思うキーワードなどについて、参考資料もヒントに発言いただきたい。

(歯科医師会 佐藤委員)

健康経営の推進にも関わるところだが、「健康無関心層等に重点を置いたポピ

「プレーションアプローチ」についてが重要だと思う。歯科でも19～60歳までがアプローチの対象として抜けやすい。小中高は歯科健診がある。大学はほとんどなく、その後は口腔に対しての関心がなく、仕事が始まると時間がなく受診につながらなくなる。

健康経営での講演会等を活用すると、糖尿病、歯周病の重症化予防、受動喫煙の予防にもつながるのではと考える。そして「誰もが自然と健康になる」にもつながると思う。ヘルスプロモーションがベースとなる。一般の住民の人にはなじみの薄い言葉ではないか。自らの考え方や行動によって、健康になるということを感じてもらえれば、個人のアンテナが立つのではないかと思う。アンテナが立てば、いろいろな情報が入ってくるようになる。そうすると、健康横浜21の施策の意味が出てくるのではないか。

(川崎市立看護短期大学 荒木田副会長)

働き・子育て世代の成人期に歯科健診がなく、意識が薄いということ、環境整備（ナッジ、行動経済学等）が必要ということ。他にいかがか。

(横浜南労働基準監督署 河野委員)

労働安全衛生法という法律がある。事業者の義務として、常時使用する労働者には、1年以内ごとに定期的に健康診断を実施しなければならないと罰則をもって規定している。かつてはなかったが、今はメンタル面の検査であるストレスチェックも一部義務化されている。歯科については、一部の有害業務にしか義務化されていないが、歯科の健康も生活習慣予防などに非常に重要というお話を伺い、今後数年に1回程度でも、職場での健診対象に入れてもよいのではないかと、個人的には感じている。

(川崎市立看護短期大学 荒木田副会長)

今回、コロナでメンタルヘルス、孤立だとかも言われていて、重要なところと思っている。他に何か、この観点は入れておくべきといったところはいかがか。スポーツ関係では、金子委員、何かご意見はあるか。

(横浜市スポーツ協会 金子委員)

スポーツセンターの管理運営を行っているが、コロナ禍の緊急事態宣言の時には、場がなくなってしまう。宣言解除後は、開館はしているが、人数制限や感染予防対策など諸々の制約があり、利用者の方も少なくなり、離れている方もいる。しかし、イベントが少なくなっている中、感染症予防対策を万全にしてイベントを開催すると、非常に応募が多い状況もある。

コロナ禍でスポーツ業界は厳しい状況で、イベント開催のためいろいろな制約もあるが、イベント開催を一方では欲する人もいる。ピンチの中ではあるが、健康づくりをお届けする者として、様々な感染予防対策をとった上でイベントを開

催していきたい。

「身近な地域で気軽に健康づくり」については、地域に出向いて行って健康づくりをするのは使命だと思っている。

18区に1人ずつ連携担当職員というスポーツを振興する者を配置している。地域活動の場の確保、担い手の育成が大変重要である。保健活動推進員やスポーツ推進委員など地域の方と一緒に活動していくことが大切だと思っている。

(川崎市立看護短期大学 荒木田副会長)

身近な地域に出向いて行って、スポーツで健康づくりを行う、感染症対策をして、安全に健康づくりを行うという話をいただいた。

やはり、健康づくりといいますと家庭から、家族の中で健康づくりをしていくことが重要だと思うが、横浜市PTA連絡協議会 青木委員いかがか。

(横浜市PTA連絡協議会 青木委員)

「新しい働き方やライフスタイルに合わせた健康づくり」について。私は会社員で、普段は通勤時結構歩いているが、在宅ワークになるようになってから、運動不足に知らず知らずのうちになって、体重が増えている。

動かないことによる肥満、ストレスを上手く解消するような仕組みを検討していければと思っている。

(川崎市立看護短期大学 荒木田副会長)

知らず知らずのうちに自然と肥満、ストレス解消ができるような健康づくりができる環境は重要だと思っている。

(保健活動推進員会 田中委員)

戸塚区の保健活動推進員会が戸塚区スポーツセンターと連携して、「家の中で何かをしながらできる体操」を発信した。情報を入手し、広く周知した。コロナ禍だけではなく、これからは家の中で何かをしながらできる健康づくりが求められているのだなと感じたところだ。

(川崎市立看護短期大学 荒木田副会長)

ながらでできる運動、気軽にできる運動ということだと思う。  
神奈川県栄養士会 長谷川委員いかがか。

(神奈川県栄養士会 長谷川委員)

あと10年後、家庭食も大事ですが、中食、外食がますます増えてくる。知らず知らずのうちに健康なものを食べていることが理想的。健康経営の企業の中にも、外食や中食を営んでいる企業も巻き込んでいったら、自然に健康なものを食べることに繋がると思う。

(川崎市立看護短期大学 荒木田副会長)

中食が進んでいる中、食を提供している企業やスーパーを巻き込んでいくとよいということ。

(相鉄ローゼン株式会社 前橋委員)

会社としては、お客様の選択やニーズに応じて商品売っていくことも大切。従業員の健康ということでは、定期健康診断のウェイトが大きくなっている。健診データをもとに、健康状態の悪い方へのアプローチは健康保険組合の協力を得て行くと、健康状態が改善する。

しかし、「5年後には元の状態に戻る」はよくあるが。

(テレビ神奈川 玉村委員)

身近なところから話をすると、リモートワークは、この10年である程度、定着してくると思う。私自身も運動不足を感じている。外勤営業時代は1日6,000～10,000歩、内勤になると4,000歩程度、リモートワークになると昼食を買いに行くだけで1,500歩。これでは非常に心配。例えば、階段の上り下りは努めて行うようにして、筋肉量を落とさないよう、代謝を落とさないよう、肥満にならないような心掛けが重要で、そういうところの啓発活動をしていくと有効なのではないか。

コロナ禍で心の病になる方がいる。分野別で「休養・こころ」がある。コロナと関係があるかはわからないが、うつ病というのが、「心の風邪」と聞いたことがあるので、誰でもなりうる。治療すれば治るということを広く横浜市民に知らしめて、特別視せず、周りが理解をして助けていくということを考えたらどうか。

(川崎市立看護短期大学 荒木田副会長)

メンタルヘルスでは、ここ数年で自殺者数が下がってきたところだったが、このところ上がってきていると聞いている。気を緩められないところだ。

(全国健康保険協会神奈川支部 田中委員)

分野別の「生活習慣病の重症化予防」に健診が入っていると思われるが、もっと健診受診を前面に出してもいいのでは。健診を受けて健康であれば、そこで運動とかいろいろな取組をしてもらえばいいし、運動制限等がある人は健診をきちんと受けて、自身の体調を確認してもらえばよい。受診率、神奈川県は全国で45番目。保険料率が年々上がってきている。

喫煙率が高い。女性が全国4位。歩きたばこによく遭遇する気がする。

禁煙をもっと言ってもいいのではと思う。

(神奈川県国民健康保険団体連合会 高塚委員)

働いている時は、健康診断を年に1回受けるが、退職すると健診が遠のいていく。そういう方たちにどうやって健診を受けてもらうかが問題になっている。保険者協議会内に保健師さんの専門部会があり、専門部会の取り組みとして事業担当者説明会等で退職後の健診の重要性をPRする計画がある。今年度は、コロナの影響で開催できなかったが、来年度においても実施を計画している。

(川崎市立看護短期大学 荒木田副会長)

やりっぱなしにしない健康診断、保健指導にきちんとつなげる。

コロナの時代で運動する人、しない人の二極化が明確になってきた。ヘルスリテラシーを高める活動が重要だと思っている。

「災害時の二次被害による健康被害」は、生活防災というか、例えば「お薬手帳を常に持っている」と災害に合った時でも安全」というような「日ごろの生活の中でできる防災」というレベルで考えていくと健康づくりにつながる。いろいろなご意見がいただけた。

(事務局)

いただいたご意見を参考にして、今後、第3期計画の策定を行っていくので、よろしくお願ひしたい。

**【議事3】食育推進検討部会の設置について <資料5>**  
事務局から資料5について説明

(横浜市医師会 渡辺会長)

事務局より報告があったが、食育検討部会の設置について、皆様より、ご意見等あるか。

(食生活等改善推進委員会 守分委員)

食育に携わるものとしては、検討部会の設置はすごく重要なことだと思う。

(横浜市医師会 渡辺会長)

他の皆様から、何か補足等はないか。

それでは、部会を設置して検討を進めていくということによろしいか。

(一同)

異論なし。了承。

**【報告1】健康に関する市民意識調査の実施状況について<資料6-1、6-2>**

**【報告2】横浜市受動喫煙防止対策における取組の方向性について<資料7>**

**【報告3】よこはまウォーキングポイント事業について<資料8>**

**【報告4】令和2年度における健康経営の推進について**

<資料9、参考資料1~3>

**【報告5】横浜市糖尿病重症化予防ネットワーク検討会及び作業部会の実施状況について**  
<資料10>

	事務局から資料 6-1～10 について説明
	<p>資料 10 について</p> <p>(歯科医師会 佐藤委員)</p> <p>ある区で医科歯科連携の取組をしていた。ただ、歯科から医科、医科から歯科のハードルが高く、データが集まらなかった。糖尿病の医科歯科連携がなかなかスムーズに進まない状況に関しては、いくつかの問題がある。医師、歯科医師の双方に事業の重要性が十分理解されていない可能性あり、これは医師会・歯科医師会の会員への周知方法に問題があるかもしれない。</p> <p>歯科から医科に患者様を依頼する場合、もし糖尿病でなかったらといった医科への遠慮もあるかもしれない。</p> <p>また、データ等記載内容の煩雑さについて、慣れの問題が一番と考えられるが改善の必要性は感じており現在検討中である。</p> <p>今回、医科歯科連携が受け入れられたので、すごく期待している。</p> <p>以前、歯周病の中等度以上の方を対象に、尿検査を実施したことがあるが、糖尿病疑いの陽性が出る人がかなりいた。ご本人は認識がないので、受診を勧奨したりしたことがある。双方の連携でより良いものが出来上がるとよいと思っている。</p>
	<p>閉会</p> <p>(横浜市医師会 渡辺会長)</p> <p>ご発言いただいた意見については、第 2 期健康横浜 2 1 の最終評価に向けて、皆様とともに検討を深めていきたい。以上を持って、議事の全てが終了した。</p> <p>(事務局)</p> <p>委員の皆さまから、たくさんの意見をいただいた。次年度に向けて、整理しながら進めていきたい。</p>